

### 気になるフィオーレ喜連川人vol.31 佐藤 かよ子

「ぜひうちにあるガラスを見て下さい」  
 そう言って記者を家に招いてくれたのは2丁目に住む佐藤かよ子さん。家に入った瞬間「うわあ!」と思わずこぼれた。見渡す限りガラス、ガラス…。その数に驚いた。小さなものから巨大なものまで、家中を所狭しとガラス製品が並ぶ。  
 「大正時代とかの昔のガラスが好きで、集めていたらこんなになってしまったの。これでもほんの一部だよ」  
 ひとつ手に取ってみると、ずっしり重みがあり分厚い。所々気泡が入り、ぼつりとした厚みは均等でなく、表面が揺らいで見える。作る技術はもちろん、色付け技術も発達している。色付けた時、ひとつの器に色をつけるにも、パーツごとに異なるウランガラスなどの色ガラスを用いた。技術がないからこそ丁寧に手間をかけ作られて



#### 一本のラムネの瓶から

text by 大河原千晶

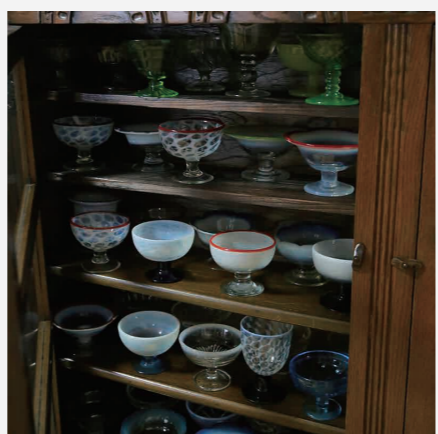


2丁目 佐藤 かよ子 KAYOKO SATO

いるのがわかる。  
 「今のガラスは複雑な形もできるけど昔はそうはいかない。ふたつと同じものがないよね」  
 それが魅力でもある。元々コレクションのきっかけは、ラムネの瓶一本から始まった。インテリアに興味があり、インテリア関係の本を眺める内ガラスにも興味を持った。ラムネの瓶は、当時流通が今ほど発達していなかったことから、地域ごとに異なったものが使われていた。統一されたものでなく、少しづつ違うことが面白く、骨董市を中心に色々なラムネ瓶を買い集めた。そうこうする内、瓶だけに留まらず、砂糖いれや醤油さし、昔のガラス

製の駄菓子いれ、浮き玉など、コレクションはどんどん増えた。さらにガラスの生産地へは、どこでも訪ね歩いた。ご本人によると、なんと今までの購入総額は、家一軒買える程!!そんな佐藤さんの最もお気に入り、和ガラス。その魅力を特に出すことができるのは、「水コップ」という、かき氷用の皿。  
 「昔はこういう器に氷を入れて食べたのね。うちに来る友達でも、『自分が子どもの頃に使っていたガラスだ』って感激して昔話に花を咲かすことがあるのよ」  
 友達が遊びに来ると、なるべくコレクションのガラスでお茶やアイスクリームを出し、おもてなしをするそう。そこには実際に使ってその良さを感じて欲しい、という想いがある。ガラス製品は日用品。使われる為の道具として作られる。  
 「知り合いからはよく、『価値のあるものをそんなふうにする的に使って割れたらどうするの?』と聞かれる。だけど、割れ

たら割れたで仕方ないよね。好きなものだから、普段から使いたいもの」  
 道具は使ってこそ。飾られるだけでなく、愛されて使う人につくりなむ。よく見ると食卓におかれた醤油さしや調味料入れなど、所々ガラス製品が使われている。ガラスは割れもの。佐藤さんによると、年々アンティークガラスの数は少なくなってきたおり、値段も高騰しているそう。割れる儚さがあるからこそアンティークガラスは人々を魅了する。どこか懐かしく、温かみを感じるアンティークガラス。「その魅力を一緒に感じ、分かち合える仲間が少しでも増えたら」



9月17日にかんぽの宿で敬老会が行われた。敬老会の対象者にあたる75歳以上の住民は167人。フィオーレ全体では911人なので、実に住民の約5人に1人が対象となっている。まちの魅力を語るのに、若者の活躍を取り上げてしまいがちだが、高齢者が元気に日々生活している事もまた、いいまちの条件である。敬老会は今後もそんな元気な高齢者の姿で溢れていた。

### フィオーレ行政区敬老会 Congratulations for the Aged Day

敬老会参加者に聞く!

いま楽しみにしていること

小森マン

以前から自宅で尺八を教えています。昨年アメリカ人の男性も通ってくれていますよ。

祝95歳表彰 武田マン

自宅の庭で野菜を作るのが楽しみです。これまでほうれん草や三度豆、ナスなどを育てましたよ。

羽山マン

登山が一番の楽しみです。若い頃から登山で来たから、この年でもまだまだ登れる!

久保マン

75歳から本腰入れてゴルフに挑戦! まだまだたくせだけど、コンペで2回優勝しました。ハンデ36だね

浅香マン

ウィンドウショッピングを楽しみにしています。友達と集まってお茶会(抹茶)を開くのも楽しいです。